

第1号議案 2021年度事業報告書（案）

フードバンクしまね あったか元気便

1：松江市の3分の1に広がりました

21年度は、前年度の6つの小・中学校の取り組みから三中、八雲中、湖北中、雑賀小、法吉小が加わり11校の小・中学校へ取り組みが広がりました。

これらの小・中学校に通う児童、生徒数は、松江市内の3分の1を占めています。のべ利用世帯数は、1,405世帯、延べ家族人数4,940人となり、20年度実績の約2倍となりました。

18年度スタートした時点と比して「点」から「面」に、さらには、まちづくりの規模に広がりがつあります。

また、長期化するコロナ禍のなかで、10月と1月には「臨時食料応援」にも取り組みました。さらに、島根大学の学生応援、県内の5つの子ども食堂へのスポット応援など、これまでの枠を越えた取り組みになりました。

2：「地域の力」を引き出して「支え合いの輪」も広がりました

フードドライブの協力団体・企業は、69箇所となり、利用者に届けた食品総量は約16トになりました。市立第一中学校PTAや8つの公民館をはじめ、「Amzon みんなで応援」も全国各地の、のべ100人から寄せられるなど「支え合いの輪」も大きな広がりになりました。

取り扱いの食品も「受け取り世帯」が、前年度の23世帯から100世帯に広がったことなどから、野菜や冷凍品など、これまで届けられなかった食品も届けることができました。県社協や松江市社協との連携で「生理の貧困」にも取り組み、生理用品の配布もできました。

のべ21回のパッキング作業には、高校生や大学生をはじめ幅広い世代や団体、企業等から、のべ866人のボランティア・スタッフが参加しました。

3：いろいろなスタイルで3千人を超える人たちから募金が寄せられました

正会員団体をはじめ企業、団体、個人など3千人を超える方々から3百万円を超える募金が寄せられ、前年の約2千人、210万円を大きく上回りました。

寄付金活動では、一畑百貨店、JAしまね、生協しまねの協力で、「寄付金付き商品」の販売が行われたのをはじめ、しまね社会貢献基金のクラウドファンディング事業に取り組み募金目標20万円を達成しました。島根銀行と34社の出張販売協力会からの寄付、地域での「応援ミニバザー」の開催、自発的な募金箱の設置など、いろいろな形で「地域の力」を引き出し、財源を支える取り組みとなりました。こうした取り組みで、利用者の急増を財政的にも支えることができました。

今後、私たちが松江市のすべての小・中学校の「就学援助世帯」に対象を広げた場合には、宅配料や補充食品の購入費などの直接的な費用だけで、3倍の

財源確保が必要となる見込みです。さらに県内の全域に広げた場合には約 10 倍の資金確保が必要となる見込みです。

4：大きな場でも、ちいさな場でも情報発信を広げました。

BSS 山陰放送の SDGs キャンペーン番組での活動紹介をはじめ、島根県の山陰中央新報紙を使った県広報での活動紹介など、これまでにない広報活動となりました。会報の「あったか元気便だより」は、NO13～NO17 を発行しました。定期配布も前年の 900 部から 1700 部余りに増え広報活動のひろがりをつくりました。また、22 年度から NHK 放送大学「地域福祉の課題と展望」で、あったか元気便の取り組みが放送される予定です。ホームページ、facebook も充実に努めました。

松江市の民生児童委員協議会の合同研修会、松江市主催の「まちづくりを考える会」、つくろいネットワークなどでお話する機会を得ました。また、北高生の「総合学習」や島根大学消費者研究会など、高校生や大学生などの「学習会」も開かれました。学習会や講演会等には、のべ 539 人の参加がありました。

春休み便では、島根大学の研究者との共同でアンケート調査を行ない、利用者と子どもたちのくらしの状況やニーズの把握をすすめました。

5：NPO で「見える化」し、利用者からも地域からも信頼させる組織へ

NPO 法人への移行準備をすすめました。利用者からも地域からも「見える化」「見せる化」をすすめ、より信頼される組織形態に移行し、親しみやすい開かれた組織と運営を引き続きめざします。

6：利用者増のなか、運営体制の拡充や実務環境の整備で乗り越え

役員会の毎月定例開催と役員の担当制で諸課題を円滑に推進する体制の整備がすすみました。

事務局体制は、新たに事務局次長と専任相談員（社会福祉士）を配置し体制を充実しました。

利用件数が大幅に増加するなか、利用申し込み情報や宅配伝票等のシステム化により省力化をすすめました。

さらに、あらたに「一時保管倉庫」を設置し、低温保冷库や食品棚を配置し増加するフードドライブ食品の食品管理と利用者の「臨時食品応援」にも即応できる施設整備を行いました。

第1号議案 2022年度事業計画書（案）

フードバンクしまね あったか元気便

（はじめに）

できるだけ早期に松江市内のすべての小・中学校を対象に取り組みを広げることがめざします。そのため22年度は、利用実世帯数を前年度比130%アップの360世帯をめざします。

NPO法人設立とともに、利用者からも地域からも信頼と期待を高め、さらに大きな利用と「支え合いの輪」の広がりを作り出します。

○ もっと身近で、もっと頼りに

「島根県子どもの生活に関する実態調査」（2019年）や「利用者アンケート調査結果」も踏まえ、利用者のもっと身近で、もっと頼りになる事業をめざします。

1：「おかあさんのための『レスパイト（小休止）応援』」の本格的な始動へ

「おたがいさま」、地域つながりセンターの「”子どもの笑顔”応援基金」と協同し「おかあさんのための『レスパイト応援』」に取り組み「子どもたちとゆっくり過ごせる時間」や「おかあさんのための時間」を提供します。

2：「みんなで『ひろばに出よう』」で太いネットワークづくりへ

ラインなどの活用で、くらしや子育てに必要な情報を発信するとともに、「おしゃべり」を通じて利用者とあったか元気便のネットワークづくりをすすめ「『困ったとき』」は、おたがいさま」のつながりづくりを太くしていきます。

3：長期休校期間の「寺子屋（学習支援）＋お昼ごはん」を地域といっしょに

夏休みなどのおかあさんの「悩みのタネ」の「宿題とお昼ごはん」の解決にチャレンジします。津田地域や学生ボランティアのみなさんといっしょに「

○ 「支え合いの輪づくり」も3割アップ
寺子屋（学習支援）＋お昼ごはん」に取り組みます。

利用者増をめざすうえで「支え合いの輪づくり」も同時に広げることが必要です。利用者増で直接的費用はもとより、管理運営費の増大も見込まれます。サポート会員や協力・連携の団体・企業等をひろげ、安定した食品確保と財源確保など、利用増に見合った取り組みの強化を図ります。

1：「お金・食品集め」と「ひと集め」を一体に

各団体のこれまでの募金活動を基本にしつつ、多様な財源確保の取り組みをすすめます。「市内 100 箇所の募金箱設置計画」は、財源確保の 1 つの柱として取り組むとともに広報活動としても、また、「つながりづくり（インフルエンサーづくり）」をすすめる取り組みとして広げます。

新しく作成する「寄付金あんないチラシ」を広め、企業や個人に「しまね社会貢献基金」を通じたクラウドファンディングや「団体希望寄付」など、制度を活用した働きかけを行います。「寄付金付き商品販売」の取り組みは、オリジナル POP など広告費用の低減を図り「いつでも・どこでも・だれでも」参加できる取り組みとして工夫し参加企業・商店を広げます。

2：「NPO 設立記念企画」で、事業への参加・参画の広がりづくり

NPO 設立記念企画として利用者世帯を対象とした「記念企画」を検討します。財源は、クラウドファンディングなどに取り組み市民が参加・参画するスタイルを工夫します。市民の誰からも「見える」、だれでも「参加・参画」できるフードバンクをめざし、この町にフードバンク事業の大きな下地づくりをすすめます。

3：「食品ロス」の活用も通じて安定した食品確保を

食品製造業等からのフードドライブや小売店での「食品 BOX」設置のよびかけなどを広げ安定した食品確保をめざします。農水省や「全国食支援活動協会」のしくみも活用し、食品ロスの活用にも取り組みます。

また、利用者増や地域的な広がりの中、地域との「親和性」やボランティアの参加しやすさも踏まえた新たなパッキング会場、パッキングスタイルを検討します。

○もっと発信、もっと地域と

1：アンケート結果を地域のものに

島根大学の研究者と共同ですすめる「利用者アンケート調査」の結果を、会員団体をはじめ地域とともに学びます。調査結果も踏まえて、必要な行政への「提言」も検討します。

2：全県的な展開も視野に

昨年取り組んだ県内の子ども食堂への「お米 de 応援キャンペーン」や学生支援など、コロナ感染等の状況も踏まえて、必要なスポット応援も検討します
○法人化に見合った基盤強化、管理運営の整備に取り組みます

NPO 法人への移行をすすめるとともに、サポート会員の拡大など土台づくりの強化をはじめ、管理運営の整備、改善を図るため引き続き「役員担当制」で諸課題をすすめます。また、経理実務専任者を配置します。

【第1号議案】

2022年度事業報告（案）

特定非営利活動法人
フードバンクあったか元気便

22年度は、コロナ感染禍の長期化や諸物価の高騰などの影響もあり利用者が急増しました。こうしたなかで目標とした360世帯の利用を大きく上回まり17校392世帯に利用が広がりました。これら17校の小・中学校に通う児童・生徒数は松江市内の全児童・生徒数の40%を超えました。

○利用者・地域からも「より信頼される」NPO法人としてスタート

- 1： 7月のNPO法人設立総会を経て8月にNPO法人を設立しました。
- 2： 利用も前年度11校、のべ1,405世帯から、17校、のべ1,737世帯に広がりました。アフガン避難民家族への食品応援をはじめ、島根大学、あらたに県立大学（松江キャンパス）の学生応援にも取り組みました。
- 3： 「おたがいさま まつえ・やすぎ」や地域つながりセンターの「”子どもの笑顔” 応援基金」と協同して開始した「おかあさんのための『レスパイト応援』」は、のべ利用は5回・5時間になりました。
- 4： SNSの活用で必要な情報発信と交流促進を図る取り組みは、新たにSMSの導入を図り本格的な取り組みへの移行がすすみつつあります。
- 5： 就学援助世帯の子どもたちを対象に取り組んだ長期休校期間の「お昼ごはん+寺子屋（学習応援）」の取り組みは、夏休みの津田小校区に続いて、冬休みには古志原校区でもはじまり、のべ11回開きました。島根大や新たに県立大の学生ボランティア、公民館や地区民児協、地区社協、食改支部などと連携した取り組みとなりました。
また、サクラ高等学院の高校生と島大学生ボランティアの実行委員会主催で「クリスマス交流会」を開催できました。

○利用者と地域の「橋渡し役」として

- 1： フードドライブ参加は、21年度69団体から88団体の参加に広がり総量約28トンの食品とお米が寄せられました。
農水省や全国食支援活動協力会、食品総合卸業など、新たな食品確保ルートの拡大に努めました。
- 2： ボランティア等、のべ約1,100人が参加しました。
利用者増のなかで、新たに小規模パッキング作業などに取り組みました。効率的で、ボランティアの相互交流もしやすい昼間のスタイルとして新たな参加層のひろがりにもなりました。また、大学生や高校生など、若い世代にも広がりを作りつつあり、のべ参加者数は昨年比の125%となりま

した。

- 3 : 「市内100箇所の募金箱設置計画」は、財源確保の1つの柱として取り組み79箇所に設置できました。昨年度に続き「しまね社会貢献基金」を通じたクラウドファンディングとあらたに共同募金会のテーマ募金に取り組み目標を達成しました。

また、松江保健生協では、地域の組合員支部主催の「フードバンクしまね応援バザー」が3箇所の取り組みに広がりました。

前年に引き続き一畑百貨店では、通年で「寄付金付き商品販売」に取り組みとなりました。「フードバンク応援自動販売機」は、10台の設置または設置予定となりました。

○もっと発信、もっと地域と

- 1 : ホームページの更新を図り、親しみやすく、わかりやすい、スピーディーな情報発信に努めました。Facebookは、日頃の「小さな情報」の発信を強め、フォロワーも徐々に増加しています。元気便だより（会報）は、4回発行し定期配布部数は2,640部となりました。

また、ローカルテレビニュース、ローカル紙掲載等、マスコミ報道を通じて地域への情報発信がすすみました。

フードバンクの取り組みを紹介する講演会や報告会も14箇所、424人の参加がありました。「フードバンクしまね学習講演会」には、70人を超える参加があり学習と交流を図りました。

- 2 : 島根大学の学際的な研究チームと共同で「利用者アンケート調査」を行い、情報発信と学習、結果を踏まえた「提言」をまとめました。

○法人化に見合った基盤強化、管理運営の整備に取り組みました

- 1 : NPO法人移行に伴い、諸規定の整備等を図り管理運営改善を図りました。また、正会員やサポート会員の拡大など土台づくりの強化を行いました。引き続き「役員担当制」で諸課題をすすめるとともに、経理実務専任者の配置や運搬車両の購入など日常業務の整備をすすめました。



2024年度事業計画

2024年5月
特定非営利活動法人
フードバンクあったか元気便

はじめに

本年度より、向こう3年を目途に松江市内のすべての小・中学校に利用対象校を広げることがめざします。

○市内の対象児童・生徒の8割をカバーする取り組みに

- 1：2024年度は、あらたに二中、母衣小、川津小、朝酌小の4つの小・中学校での取り組みをはじめます。これにより市内の対象児童・生徒の概ね8割程度をカバーする取り組みに広がります。
- 2：のべ2,400世帯、のべ8,700人に、29トンの食品の提供をめざします。また、日常的に食品を提供できる「みんなの冷蔵庫」（仮）設置について具体化の検討を行います。

○課題ごとに「小さな協働」を積み重ねて

- 1：「中学3年生の進路・進学『応援塾』」（共催：NPO スペース、島根大学研究者チーム）は、利用対象校を広げて取り組みます。中学3年生の子どもたちと保護者が集う「15の春をみんなで祝う集い」（仮）を取り組みます。
- 2：島根大学 BBS サークルやサクラ高等学院などとの「協働」で、子どもたちの「学習と体験の場」づくりを拡充します。
- 3：「キッズコンサート」（県立大学研究室）など、主催者等との協力・連携とSMSの活用で「おやこde楽しむ体験の場」づくりを、さらに広がります。
- 4：「おたがいさままつえ やすぎ」、「地域つながりセンター」との協働で「おかあさんのためのレスパイト応援」は、のべ利用100時間に利用を広げひとり親に「時間とおじゃべりの場」を提供し「時間の貧困」の改善に向けた取り組みをすすめます。

○利用者増に見合った自力120%アップで、

- 1：フードドライブは、会員団体の業態や組織の特性をいかした新しいスタイルを工夫するなど、お米（玄米ベース）20トン、食品9トンの実現をめ

致します。

- 2 : 会員団体での取り組みの強化に向け優れた経験などの交流をすすめフードバンクの取り組みが、それぞれの会員団体の「元気度アップ」につながるスタイルを工夫します。
- 3 : 利用者増加と利用者地域の拡大のなかで、パッキング会場や引き渡し会場のあらたな確保を検討します。あわせて、地域団体や住民との親和性のある会場確保などを図り、「地域実行委員会方式」などの取り組みスタイルを工夫し、「参加」から「参画」へステップアップを図ります。

○「いつでも・だれでも・どこからでも」応援できる自主財源づくり

- 1 : これまでの取り組みに加え、あらたに「IC カード寄付」「レシート寄付」など、安定した自主財源の確保をめざし、参加しやすい取り組みの具体化を図ります。
- 2 : 「クラウドファンディング」（しまね社会貢献基金・期間 8 月～9 月・目標 150 万円）、「共同募金テーマ募金」（期間 1 月～3 月・目標 100 万円）は、市民参加を広げ達成をめざします。
- 3 : 「あったか元気便応援自販機」は、引き続き 30 台設置に取り組みます。募金箱の設置も引き続き拡充します。

○ もっと「見せる化」、もっと「見える化」で、「認知度アップ」を

- 1 : 「元気便だより」の配布先を広げ、4 千部定期発行で日常的な広報を強化します。会員組織内でも隅々に行き渡る広報活動を工夫します。
- 2 : ホームページの改善を図り、「支える輪づくり」（フードドライブ参加、ボランティア参加団体など）の「見せる化」を充実します。

○他地域展開の「拠点づくり」と「組織のあり方」の検討をはじめます。

- 1 : 他地域での展開を担う「拠点づくり」等にむけて、検討と取り組みを準備します。

○事務局体制の拡充や一時保管倉庫の新設で

- 1 : 利用者増による食品の取り扱い量が増加するなか「一時保管倉庫＋作業場」の新設を図ります。
- 2 : 利用者増と活動領域が拡充するなかで、「後継者づくり」の視点とあわせ事務局体制の強化と実務の改善を急ぎます。

